



校長だより

呉市立市阿賀小学校
安宗 誠



一生忘れてはならない心

本日の卒業式で私から卒業生に送った式辞をご紹介します。

コロナにより制限されていた生活が少しずつもとの生活に戻りつつあるものの、本年度も本来の形では行えない卒業式となりました。しかし、皆さんをお祝いする気持ちの深さは変わりません。卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。そして、保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。

今日の良き日、人生の節目の今をどう捉え、これからどう生きるべきなのか、卒業生の皆さんとともに考えてみたいと思います。

まず、今の自分の命のこと。この命はだれから引き継がれたものなのでしょうか。代々さかのぼっていくと、どこまでさかのぼればよいのでしょうか。ひいひいひいひいひいお爺ちゃんお婆ちゃん？とてつもなく大人数の、今となってははっきりさせることのできないご先祖様の命を大昔から引き継いで、引き継いで確かに今、自分の命がここにある。それだけでも奇跡です。

次に、世界に目を向けてみましょう。ウクライナ侵攻による死者は両国合わせて30万人に達したとも言われています。戦争はこのウクライナ侵攻に限らず、世界の至る所で起こっていて、毎日のように犠牲者が出ています。トルコ・シリア大地震の死者は五万人を越えたとされています。世界人口約80億人のうち1割の8億人が毎日食べ物に困っています。約22億人が安全な飲み水を受けられない生活をしています。約42億人が衛生的なトイレのない生活をしています。コロナによる死者は約700万人に達しました。国内でも7万人を越えました。交通事故で昨年、約3千人が国内で亡くなりました。いろんなことを全部合わせると、世界中で約20万人、国内だけでも約4千人が毎日毎日亡くなっている計算になります。こんな現実がある中で、今、自分の命がここにあることは決して当たり前ではないのです。

再び、自分自身のことを振り返ってみましょう。皆さんが誕生したあのとき、心の底から喜んでくれた人がいます。皆さんが赤ちゃんのとき、毎日やさしく抱いてお風呂に入れてくれた人がいます。皆さんのおむつをずっと換え続けてくれた人がいます。病気のときは、徹夜で看病してくれた人がいます。あなたが悲しいときには自分のことのように心を痛み、あなたがうれいときには自分のことのように喜んでくれた人がいます。あなたがもっている可能性を最大限伸ばそうとしてくれた人がいます。あなたのよさを理解し、認めてくれた人がいます。あなたがまちがったことをしたとき、あなたのことを思い、本気で叱ってくれた人がいます。こうしたたくさんのまわりの人の支えがありました。お陰様でここまで生きることができました。

このように考えてみると、これまでも、これからも、一生、命尽きるまで忘れてはならない心。いちばん大切にしなければならない心。それは何でしょう？

それは「感謝の心」です。みなさんは、この阿賀小学校で、家庭で、阿賀の地域の中で、さらには外の世界で、「感謝の心」を育んできました。皆さんのその心は、確実に後輩たちに受け継がれ、ますます阿賀小学校は温かい学校になっていくでしょう。そして、次の時代を担うあなたたちによって、阿賀のまちもますます温かいまちになっていくことでしょう。

そういう皆さんですから、職員一同、自信をもって中学校に送り出します。これまで、約四千日を生き抜いた皆さんが、これから百歳まで生きるとして、残り三万日あまり。数々の困難にぶち当たることは覚悟しなければなりません。しかし、「感謝の心」さえあれば、どんな困難もプラスに変えていけるはずですよ。苦しみ喜びに変わるはずですよ。そこに「幸せ」を実感するはずですよ。「感謝の心」を持ち続けたその先にある「幸せ」を卒業生全員がつかめるよう、心から祈り続けております。

保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。お子様の立派に成長されたお姿を目の当たりにし、改めて保護者の皆様方がお子様に注いでこられた深い愛情と学校へのご理解・ご協力に、敬意と感謝の念でいっぱいでございます。これからは、引き続き深い愛情で、お子様をさらなる成長へと導いていただきますよう、心よりお願い申し上げます。

また、本日は残念ながら来ていただくことは叶いませんでしたが、ご来賓、地域の皆様方、これまで、いつも変わらず学校や子どもたちのことを温かく、見守り、支えていただき、誠にありがとうございます。これからは引き続きどうぞよろしくお願ひ致します。

最後に、重ねて、卒業生の皆さんのさらなる成長と末永い幸せを心よりお祈りし、式辞と致します。

令和5年 3月18日

呉市立阿賀小学校長 安宗 誠



送辞



答辞



とても素晴らしい雰囲気での卒業式でした！

